

環境改善の取り組み

製造工程における省エネルギーの推進、環境汚染物質の代替化や回収、廃棄物のリサイクルなど、多岐にわたる取り組みを通じて環境改善を図っています。

地球温暖化防止(エネルギー削減)

環境行動計画で「各事業形態に応じたエネルギー原単位(原油換算エネルギー使用量/売上高)の削減目標を設定し、エネルギーの使用削減に努める」ことを謳い、着実な取り組みを進めています。

三井金属グループ全体で使用する原油換算エネルギーは、一部製造部門の事業拡大に伴う増加はあるものの、ほぼ横ばいで推移しています。2009年度は、三井金属グループ全体の約6割を占める製錬・素材部門のエネルギー使用量を削減するため、省エネ設備への転換を始めとする諸施策を推進しました。その結果、2009年度のグループ全体のエネルギー量は454千kL/年、製錬・素材部門は337千kL/年となりました。

製錬部門の地金重量当たりのエネルギー原単位は漸減基調にあります。2000年度を1.00として2009年度は0.89となり、省エネ対策は着実に前進しました。

2009年度の主な取り組み事例は次の通りです。

エネルギー削減に向けた主な取り組み事例

特殊銅箔事業部 上尾事業所	ボイラー更新による効率アップと環境負荷低減
パウダーテック(株)	コンプレッサーの効率アップ
パーライト事業部 喜多方工場	DF炉熱交換器の更新
彦島製錬(株)	2SK高温熱交換器更新
神岡鉱業(株)	高効率熱交換器への更新
セラミック事業部	ハイセラGHP更新、エアコン更新

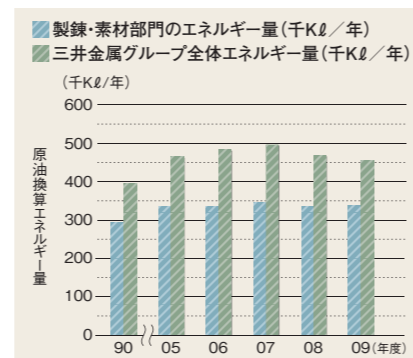
廃棄物削減

環境行動計画で「廃棄物原単位(リユース、リサイクルされる廃棄物を除いた廃棄物発生量/売上高)の削減目標値(重量)を設定し、廃棄物の発生抑制に努める」ことを掲げています。2009年度もこの計画に沿って削減に取り組みましたが、廃棄物発生量は前年度より34千t増加し118千t/年となりました。これは、市況の悪化に伴い在庫製品の一部を廃棄物として処分したことによるものです。

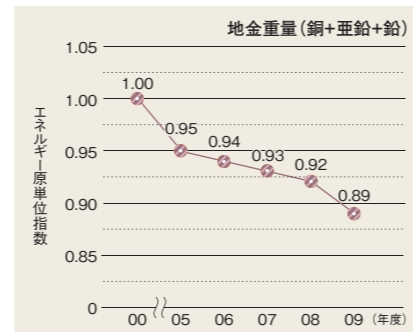
廃棄物削減に向けた主な取り組み事例

リサイクル化の推進 (三谷伸銅、三井金属アクト、MCST下関、パーライト大阪、パーライト喜多方、計測システム事業部、特殊銅箔)	
竹原製錬所	場内排出廃水の清濁分離による処理量削減
三池製錬(株)	フレコンバッグを自社燃料として焼却処分、木製パレットをチップ化してリサイクル
三井研削砥石(株)	ガラス陶磁器の再生利用
三井住友金属山伸銅(株)	処理工程の改善による脱脂液の削減

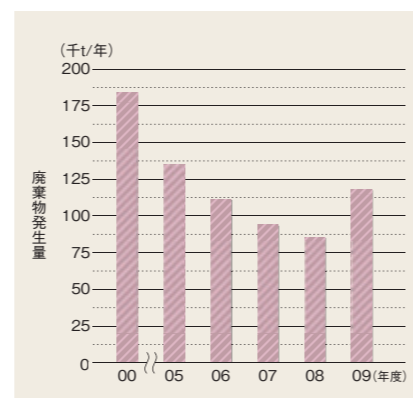
原油換算エネルギー使用量 実績



地金重量当たりのエネルギー原単位指数



廃棄物削減 実績

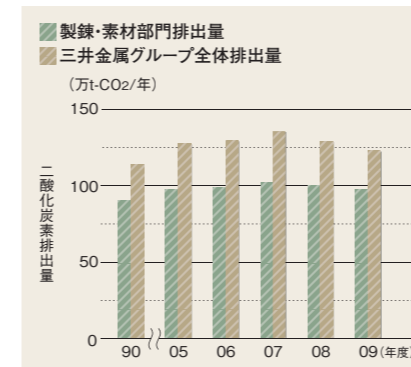


CO2排出量削減

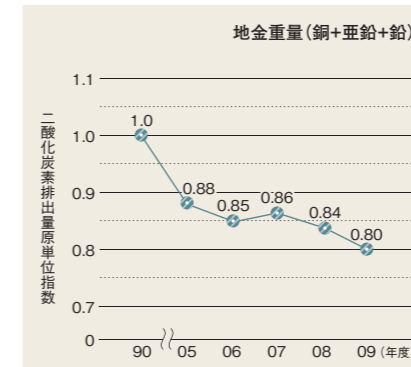
2009年度の三井金属グループ全体のエネルギー起源CO2排出量は、125万t-CO2/年。製錬の生産拡大などにより、京都議定書・基準年の1990年度に比べて約8.7%増加しています。

しかし、地金重量当たりのCO2排出量原単位は、1990年度を1.00として漸減傾向にあり、2009年度は0.80となっています。今後も電力、コークスなどの効率的な使用を通じてCO2排出量の削減に取り組んでいきます。

エネルギー起源CO2排出量 実績



地金重量当たりのCO2排出量原単位指数



環境汚染物質の排出量削減

2001年施行のPRTR法(化学物質管理促進法)に基づき、三井金属グループの各所社では化学物質の排出量・移動量を集計し、行政に報告しています。排出量上位10物質で全体の96%を占めており、カドミウム、フッ素、ニッケルなどで排出量が減少しています。

取り組み事例としては、亜鉛製錬工程の管理強化による漏水にする処理工程での負荷削減(彦島製錬株)、銅箔の薄物化要求への技術的対応による銅水溶性塩の削減(株エム・シー・エス下関工場)などがあげられます。

また、自動車機器事業部、ダイカスト事業部、機能粉事業部、マイクロサーキット事業部を中心とする部門では、RoHS、REACHなどの欧州規制に関するユーザー要望の製品含有化学物質ガイドラインなどにも的確に対応しています。

今後も三井金属グループは、環境汚染化学物質の使用中止・代替化・回収などにより排出削減に努めていきます。

環境汚染物質排出量削減 実績

